



H18. 2. 24 1181  
静岡県漁業協同組合連合会  
☎054-254-6011 Fax054-253-9343  
編集・発行 = 指導部 漁政課  
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

### 1. 密漁防止対策研修会が開催される

#### - 県密漁防止対策協議会 -

県密漁防止対策協議会では、2月21日浜名漁業協同組合において、採貝漁業者ほか漁業関係者約140人の参加を得て、密漁に関する基礎知識の習得を目的に、密漁防止対策研修会を開催しました。

研修会は、JF全漁連顧問弁護士成田健次氏より「密漁に対する接遇について」と題して講演が行われ、密漁防止には啓発活動、監視活動、取り締まり機関との連携が必要であり、漁業者として採るべき法的手続きに関し、その方法とその問題点等について強調しました。

また、過去の事犯事例をもとに、密漁の法的責任追及に係わる漁業権侵害の場合や、密漁事件の処理手続き等について述べました。

### 2. 未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選に、本県から3施設が認定

水産庁では、漁村の魅力を掘り起こし交流をもっと盛んにするため、漁村に残る歴史的・文化的に価値の高い施設や、現在では貴重な工法や様式の施設などを選定し、このほど「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」を決定しました。

対象となった施設は、漁村にあって、漁村の歴史・伝統・文化・伝統的漁業・漁業史に残る出来事、漁業者とのゆかり、その他の故事に関する物語やエピソードのある次の施設が対象で、漁業に使われるもの 建築、土木 史跡、遺跡 その他工作物です。

県内では、前記要件に該当する次の3施設が選ばれました。1. 富戸の魚見小屋(伊東市) = ボラ漁のための見張り小屋で地元漁業を象徴する施設。 2. 網屋崎の網小屋(西伊豆町) = 網を張ってイルカを追い込む独特な漁法が地元であり、その網を保管するための施設。 3. 大瀬神社(沼津市) = 海の守護神として知られている。

### 3. 県漁業青壮年部連合会第45回通常総会、研修会を開催

#### - 県漁青連 -

県漁協青壮年部連合会では、2月17日県水産会館において県下漁協青壮年部員約50名が参加し、第45回通常総会及び平成18年度研修会を開催しました。

通常総会は、県漁青連平山会長より挨拶が行われた後、来賓として県農業水産部水産総室竹内総室長、県信漁連星川代表理事長より夫々挨拶が述べられました。

引き続き議長には、松崎町漁協雲見青壮年部・高橋英男氏が選任され、議事進行を行い、平成17年度事業報告、平成18年度事業計画等について審議し、提出された議案は全て原案どおり可決承認されました。

総会終了後引き続き、平成18年度研修会を開催し、(株)水土舎技術顧問農学博士木幡孜氏を講師に迎え『日本の漁業問題 - 高価格輸入7品目に駆逐される国産魚介類 -』と題して講演が行われ、漁業再生の原動力は若い力と正しい現状認識が必要で、食糧自給率100%可能な魚介類にあって、魚離れと魚価安により約53%の自給率に留まっていること

## 自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

から、危機意識の高まりと水産物の輸入量を減らす必要があるなどと力説されました。

次に全国漁青連理事平山敏郎氏より、『全国漁青連の理事を振り返って』と題して、全国漁青連の活動紹介や、水産庁長官との懇談会の様子などの報告が行われました。

### 4. 都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査の結果が公表

農水省は2月19日、都市との農山漁村の共生・対流に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とするため、内閣府が昨年11月に実施した「都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査」(平成17年11月)の概要を公表しました。調査は、全国の20歳以上の3,000人を対象に、平成17年11月24日～12月4日に実施(回収率58%)しました。

調査の結果、都市と農山漁村の共生・対流の取り組みを知っている人は2割と低いが、必要性は8割、関心度も5割と高く、近年の都市住民のゆとり志向や農山漁村体験・交流への関心の高さが表れました。

農山漁村地域への2地域居住の願望については、都市住民の4割弱が希望を持っており、年齢別では、50歳代の団塊の世代が5割弱と最も高く、次いで60歳代が4割強という結果となりました。また、農山漁村地域への定住については、都市住民の2割が希望を持っており、年代別では20歳代と50歳代が約3割と高い結果となりました。

更に、子供たちに農山漁村地域での人々との交流や自然とのふれあいの機会を学校が提供する体験学習については、9割弱が「取り組むべきである」と回答がありました。

調査の結果から、都市住民のゆとり、安らぎ志向や農山漁村体験・交流への関心の高まりと、過疎化・高齢化が進行し活力が低下している農山漁村地域の双方が都市と農山漁村の交流に対する期待が表れているものと考えられ、今後は、共生・対流の取り組みに関する国民への効果的な情報発信を行うとともに、関心がある方々への後押しにより実践へと向かう施策を実施することが重要と考えています。

### 5. 漁船海難遺児と母親の文集発刊

漁船海難遺児育英会はこのほど、設立35周年を記念し漁船海難遺児と母親の文集「メール 空まで届いてほしい」を発刊しました。育英会が昭和45年の設立以来5年の節目ごとに発刊しているもので、今回で第7集目となりました。

育英会では、本書を通じて数値では計り知れない遺族の苦労や悲しみを一般の方々にも知ってもらい、海難遺児家庭への一層の理解と海難防止意識の高揚に役立つよう願っています。

本書は、海難遺児から募集した作文・詩歌等32作品を3つのグループに分け掲載しており、一般の書店でも購入が可能となっています。

価格：840円(税込) 出版社：海文堂出版 TEL:03-3815-3292 問合せ先：漁船海難遺児育英会 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-2-5 TEL:03-3256-1981

### 6. 諸会議・日程(2月28日(火)～3月13日(月))

#### - 既報分省略 -

3月 3日(金) 県漁連 = 協同組合間提携推進協議会第14回シンポジウム(ケポール会館)

3月 9日(木) 県漁業共済組合 = 臨時総会 (県水産会館)

" 県漁連 = 館内水産団体参事会 ( " )

3月10日(金) 県超短波漁業無線協会 = 通常総会 (伊豆の国市)

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう